

【配点】
 ① 1 8点 ① 4・② 4・③ 7 各6点×3 その他各4点×11
 ③ 1 各1点×12 ② 3・③ 2 各2点×9

1

崩	に	、	知	長
れ	更	脳	り	い
て	年	の	、	人
し	期	構	多	生
ま	が	造	種	経
っ	加	や	多	験
た	わ	機	様	を
り	っ	能	な	通
す	て	が	人	じ
る	ホ	加	間	て
	ル	齢	と	さ
	モ	で	関	ま
	ン	変	わ	ざ
	バ	化	り	ま
	ラ	す	合	な
	ン	る	っ	感
	ス	う	た	情
	が	え	り	を

2
 これ
(完答)
 ある
 3
 A
 B
 C
(完答)
 ポ

(同意可)

4
 確固とした自分の考えを持ちつつ、臨機応変に方針を変えられる柔軟性。

(同意可)

5
 オ
 6
 首尾一貫性
 7
 イ・ウ
(順不同・完答)

2

1
 道ゆく人にお金や食べ物を分けてもらうため。

(同意可)

2
 1
 エ
 2
 ア
 3
 オ
 3
 A
 B
 C
 顔
(完答)

4
 もともと食べ物屋台の家族達の家と店があった土地に建てられた掘っ立て小屋。
(同意可)

5
 ア・ウ・オ
(順不同・完答)
 6
 罰

7

障	が	い	を	持	っ	た	人	が	ス	ポ	ー	ツ	大	会
に	出	場	し	し	た	と	こ	ろ	で	、	見	せ	も	の
に	出	場	し	し	た	と	こ	ろ	で	、	見	せ	も	の
さ	れ	て	し	ま	う	だ	け	だ	と	い	う	考	え	。

(同意可)

8
 来
 年
(完答)
 し
 い
 9
 イ

3

①	奮	戦	②	児	童	③	孝	行	④	発	揮	⑤	業	績
⑥	統	計	⑦	際	限	⑧	勤	務	⑨	標	本	⑩	余	罪
⑪	い	た	だ	き	⑫	ざ	ゆ	う						

2
 ①
 人
 ②
 束
 ③
 カ
 ④
 日
 ⑤
 歌
 ⑥
 中

1

- 1 線①の前の部分では「年を取ると涙もろくなる」という理由が述べられているのでそれらをまとめる。ただし、傍線内に「中年の域に達したせいだ」とあるため、線①より後の部分の説明は答えにふくめるべきではない。
- 2 「頑固で考えが凝り固まつている」とは対照的な状態なので、「首尾一貫性(＝頑固)」にこだわらず考えに柔軟性がある状態を表した言葉を探せばよい。「現実には複雑な分岐ルートのこと」これは違うなと思つたら「柔軟性があるほうが望ましい」までたどりつきたい。なお、「大森莊蔵」氏の説明のまとめ部分にある「本当に賢い人とは…」の後の部分は字数が合わないことに加え、「安易に共感せず」はこの設問の要求に対応していないため誤りとなる。
- 3 A「ネガティブ」：否定的。消極的。B「アクティブ」：活発、行動的なさま。C「ポジティブ」：積極的。
- 4 「共通点」を答える問題のため、どちらか一方の人物にしかあてはまらない説明は減点される。どちらにも当てはまる表現が求められていることに注意したい。「それまでの自分の考えを改める」ことができる「柔軟性」についてふれてほしい。
- 5 「そういう決断」は直前の「ステイプ・ジョブス(アップル)の決断」について述べられていることを元に考える。アは正反對の特徴の説明なので誤り。イは「八木保」にあてはまる説明のため誤り。ウは「熟考」、「慎重」が誤り。エは「他者の意見を受け止める／反論する」、「企業内の意見をまとめ上げられる」など、全体的に誤りである。
- 6 「過去の不適切な言動から、従業員が企業に解雇される」ことに対して「私はこれをひどく愚かな行為だと思っている」として、その行為は「人間に⑤を求めた結果だ」と述べている。本来「人間の考えは常に変わっていく」はずなのに、そこに⑤を求めるが故に引き起こされる結果である。「変わらない(変えない)」ことを示した、指定字数に合った表現を探せばよい。
- 7 アは「非難されてしまう」が誤り。エは「即座に」が誤り。オについて、「首尾一貫性」は「悲惨な負け方」の原因であり、敗戦そのものの原因ではないので誤り。

2

- 1 次段落冒頭に「缶からお金を入れてもらえない日に…」とあることや、「足がない」こと、「食べもの屋台の家族」と生活を共にするまで、「ぼく」がなんらかの仕事をしている様子が読み取れないこと、そして文章全体の時代背景に注目する。「ぼく」は競争に行つて足を失い、働き口もないためやむなく路上にいたのである。
- 2 1にはメリケン粉売りの一斉摘発で捕まっても「ぼくは何回か…」とあるので、「一斉摘発」が複数回あったことが読み取れることから「ときどき」が入る。2には幼い「子ども」の様子を表す「くりくり」が入る。3には自分達の考えを一生懸命に伝える様子を表す「とうとう」が入る。
- 3 「体の一部を表す漢字一字」という指定を見落とさないように。A「お目こぼしにあう」とは見逃してもらうこと。B「骨の髄まで」とはこの場合「徹底して」という意味である。C「顔を見合わせる」とは互いに顔を見ることである。
- 4 終戦から時間が経つにつれ、少しずつ人々の生活が落ち着いていく中で「食べもの屋台の家族」たちもどの場所に居を構えるようになっていく。「具体的に」という指定に沿い、本文中の言葉を積極的に用いて答えを作りたい。
- 5 戦後間もなくの街中で、片足を失ったことで「戦争から帰ってきたつてすぐわかる」と店の娘にいわれる風貌の「ぼく」を見た人がどのように考え、振る舞うのかをイメージしたい。
- 6 それまでの過去を忘れ、名前も変えて幸せな生活を送る自分自身に対して、戦死した知り合い達を差し置いて自分だけがこんな生活することなどは許されないと、「ぼく」が考えている部分があった。そして「いつかとんでもない罰をくらうに違いない」と考えていたところに自分の過去を調べ、「スポーツ大会」に出場してほしいと誘いに来た男たちから自分の過去をつきつけられたのである。
- 7 直前の「ぼくを見せものにしたいのですか」に対しての言葉である。片足を失つて「前のように走れない、前のように跳べないと…」という部分からも、片足を失った自分が大会に出場し、人前に出ることを良く思っていないことが読み取れる。ただ、ここでは「すべての障がい者が参加する大会」について話していることにも注意したいところである。
- 8 「見知らぬ人たち」が、なんのために「ぼく」の元にやってきたのかを考えれば容易であろう。
- 9 直前までの「テレビ」を見ている「ぼく」の様子を読み取る。「ぼくを見せものにしたいのですか」と出場を断った大会が実際に開催されているところをテレビで見て、観客達の様子から出場者たちが「恥さらし」にも「笑いもの」にもなつておらず、受け入れられていることを感じとつているのである。

3

- 1 ①「奮戦」とは力をふるって戦うこと。②は「兎」の下の二画を、上の「日」の部分だけに書いてしまわないようにするなど字形のバランスに気をつけよう。③は「孝」を「考」と書かないようにしたい。④「発揮」とは持ち前の特性を十分に表すという意味。⑤は「績」を「積」と書かないように注意しよう。⑥「統計」とは定められた集まりについてひとつひとつ調べて集め、得られた数字のこと。⑦「際限」とは物事の最後、限りのこと。⑧「勤」の横棒の数や、「務」の五画目の書き忘れに注意したい。⑨「標」を「票」としてはいけない。⑩「余罪」とは着目中の罪とは別に犯した罪のこと。⑪「頂」とは山などの一番高いところを指す言葉である。⑫「座右の銘」とは常に心に留め、生き方の参考や戒めとする言葉のこと。
- 2 ①「八方美人」とは誰からも悪く思われないうに要領よく人と付き合つてゆく人のこと。②「二束三文」とは数が多くても値段が非常に安いこと。③「万有引力」とは質量を持つ全ての物体の間に作用する引力のこと。④「一日千秋」とは非常に長く感じられ、待ち遠しいこと。⑤「四面楚歌」とは助けがなく、周りが敵・反対者ばかりであること。⑥「五里霧中」とは何の手がかりもなく、方針や見込みなどが立たないこと。